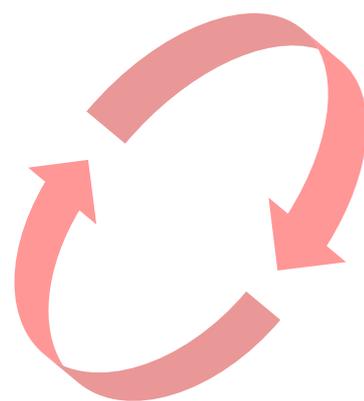


# 考え合い表現し合う 社会科の指導

第6学年



## 目次

はじめに ……………	1
武士の館の資料をもとに、気付きを共有しながら学習問題をつくる活動 ……………	2
家康による上水道整備事業の意図について、考え合い意見文に表す活動 ……………	6
単元を貫く問題意識の形成を図る、「条約改正」導入部の活動 ……………	10
鉄道敷設の意味について、異なる立場から考え合う活動 ……………	14
価値の更新を意図した、公共交通機関の意味をめぐる意見交換の活動 ……………	20
歴史学習と関連付けて、日本のODAの意味について考えを深める活動 ……………	24

## はじめに

先生方から「社会科は難しい」「社会科の授業をどのように進めたらよいかわからない」という声を聞くことがしばしばあります。そのような声に応えるべく、「社会科の授業を問題解決的な学習で進めるにはどうしたらよいか」についてお示ししたいと考え、この冊子を企画しました。

「つかむ・調べる・まとめる・深める」という問題解決的な学習の過程において、「児童相互が考え合い表現し合う学習活動」を効果的に組み入れた指導の実践例を紹介することで、社会科の授業イメージを確かにもっていただければと思います。

まず、社会科の授業および学習の拠り所になるものは、全国どこの学校においてもまた全児童においても共通の教材である「教科書」です。教科書には、学習指導要領に示されている目標や学習内容に即した社会的事象・事実が具体化されています。そして、問題解決的な学習が展開しやすいように構成されています。この教科書に記載されている社会的事象・事実（本文・資料）を「読みとること」・「見とること」が大切です。そして「読んでわかったこと・見てわかったこと」（点としての事実の認識）から「読んでわかったことから考えたこと・見てわかったことから考えたこと」（線としての関係の認識）の考えの交流へと進めます。「考え合い表現し合う活動」を通して学びを深めることで、社会的事象の意味をとらえること（面としての意味の認識）につながります。そこに社会科学学習の楽しさが生まれるのです。

「考え合い表現し合う活動」では、資料を比較したり読み取る活動から生まれる個々の問いをまとめて学習問題を設定する「つかむ」段階、資料から読み取った事実の解釈をしたり事実相互の関連づけをしたりする「調べる」段階、調べたことや考えたことを分析・整理しながら追究の帰結を確かめる「まとめる」段階、これまでの学習でわかったことや考えたことをさらに深めて新聞や意見文等に表す「深める」段階のそのいずれの過程においても、児童一人一人が生活経験、既習経験および教科書等の根拠をもって表現する考えに、教師はしっかりと価値付けし、評価することが大切です。

そして、児童個々が考えを表現し全体で交流し合うことによって社会認識の深まりを共有する「社会科授業」の、「社会科学習」の楽しさを実感させたいと思います。

この企画では、上述のような留意点をふまえつつ、教科書と、また、必要に応じて「プラス・ワン」の教材を活用しながら考え合い表現し合う活動を充実させるにはどうすればよいかを考え、提案しています。日々の授業の参考にさせていただければ幸いです。

考え合い表現し合う社会科の指導（第6学年）編集委員会

つかむ

調べる

まとめる

深める

～武士の館の資料をもとに、気付きを共有しながら学習問題をつくる活動～

### 1. 小单元名『武士の政治が始まる』

(教科書：『小学社会 6 上』 p.38～46／学習指導要領：内容（1）ウ）

### 2. 小单元の目標

武士のくらし、源平の戦い、鎌倉幕府の始まり、元との戦いとそれらにかかわる人物のはたらきや代表的な文化遺産を通して、武士による政治が始まったことを理解するとともに、それらにかかわる人物の願いやはたらき、代表的な文化遺産の意味について考えるようにする。

### 3. 小单元の評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	観察・資料活用の 技能	社会的事象についての 知識・理解
武士のくらし、源平の戦い、鎌倉幕府の始まり、元との戦いとそれらにかかわる人物のはたらきや代表的な文化遺産に関心をもち、進んで調べようとしている。	武士による政治が始まったことやそれらにかかわる人物の願いやはたらき、代表的な文化遺産の意味などについて思考・判断したことを適切に言語などで表現している。	武士のくらし、源平の戦い、鎌倉幕府の始まり、元との戦いとそれらにかかわる人物のはたらきや代表的な文化遺産について、教科書や資料集などをもとに、調べている。	武士による政治が始まったこと、源頼朝が幕府を開き、武士の力が全国に及ぶようになったこと、元との戦いが影響を及ぼしたことなどが分かっている。

### 4. 指導にあたって

#### (1) 児童の実態

本学級には、社会科の学習を苦手としている子どもが多い。そのため、知識を覚えるためだけの歴史学習にならないように工夫する必要がある。つまり、学習経験を生かした論理的な思考だけでなく、当時の人々の心情を共感的に理解する感覚的な思考を生かした学習展開を構成することで、知的にも、情意的にも追究ができる問題解決学習を目指した。

#### (2) 教材について

本小单元では、「一所懸命」という言葉から土地（領地）の重要性を大事にしたい。土地（領地）は、衣食住の生活の基盤であり、武士としての地位の指標でもある。鎌倉幕府は土地を仲立ちとした「ご恩」と「奉公」の仕組みを活用して、主従関係を広げていったのである。この「ご恩」と「奉公」の仕組みをわかりやすく理解できるのが、1221年にあった承久の乱であろう。「いざ鎌倉」の精神で挙兵した御家人達は、結果として後鳥羽上皇軍の西国の領地をほうびとしていただくことができた。教科書では、p.43の「幕府をまとめた北条政子」で扱われているが、承久の乱も単元に組み入れながら、土地（領地）に着目させることで、鎌倉幕府の仕組みから元寇による終焉まで、歴史の流れが見えてくると考えた。

(3) 指導上の工夫・留意点

歴史学習は、資料の読み取りから学習を展開することが多く、資料活用能力に課題の見られる子どもの理解が進まない場合がある。そこで、本単元では映像資料を効果的に活用しながら、視覚的に学習の習熟を図ることを目指した。具体的には、NHKのデジタルコンテンツを随時活用し、短時間にまとめられた映像により、学習への理解を深め、追究意欲を持続させようと考えた。

5. 小単元の指導（総時数5時間）

時数	ねらい	○学習活動 ☆内容
① (つかむ)	武士の生活の様子、武士と貴族との違い、武士の思いや願いについて関心を持ち、学習問題を考え、表現する。	○資料「武士の館（想像図）」を見て、武士の生活の様子や館の様子、武士と貴族の違いなどについて話し合い、学習問題をつかむ。 ☆武士は貴族とは異なり、半農半武の生活をしながら、領地を守るために武芸に励んでいること。
① (調べる)	絵図や年表、地図などの資料から、平氏と源氏といった武士団が力をつけ政治を動かすようになったことを調べるとともに、源平合戦で源氏が平氏に勝利し、源頼朝が鎌倉に幕府を開いたことを理解する。	○資料から、武士が勢力をのぼしていった過程や、源平合戦により源氏が平氏を滅ぼしたことを調べる。 ☆平清盛を中心とする平氏が貴族に代わって政治を行うようになったが、貴族や武士の間では平氏の政治に対して不満をもつ者もいたこと。 ☆源頼朝を中心とする源氏は、平氏を倒す戦いを始め、弟の源義経の活躍もあって、平氏を破ったこと。
① (調べる)	鎌倉幕府が土地を仲立ちとしたご恩と奉公の関係で武士たちを従えたことを理解する。	○鎌倉の地図やご恩と奉公の関係図、「幕府をまとめた政子」（承久の乱）などの資料をもとに、鎌倉幕府の特色について調べ、わかったことや考えたことを話し合う。 ☆源頼朝は、土地を仲立ちとする「ご恩と奉公」の関係で御家人（武士）を従えたこと。 ☆承久の乱を鎮めた幕府は、西国の領地を得るとともに、その領地を御家人に「ご恩」として分け与えることで、さらに支配力を強めていったこと。
① (調べる)	鎌倉幕府が衰退した理由を元との戦いと関連づけて考え、元との戦いの後、「ご恩と奉公」で結びついていた幕府と武士の信頼関係が崩れていったことを表現する。	○資料「元軍との戦い」を中心に、元との戦いやその後の鎌倉幕府の様子について調べ、わかったことや考えたことを話し合う。 ☆武士たちは、戦い方が異なる元軍の集団戦術や火薬兵器などに苦しみながら、恩賞を得るために一所懸命に戦ったこと。 ☆幕府は、元寇で活躍した武士たちに新しい領地を与えることができなかったこと。「ご恩と奉公」の仕組みが崩れ、幕府と武士の信頼関係が崩れていったこと。

① (ま と め る)	武士の政治が始まったところから、元寇により鎌倉幕府が滅亡するまでを年表などにまとめ、鎌倉幕府は土地を仲立ちとする支配構造が特徴であったことを理解する。	○武士の出現から鎌倉幕府滅亡までを年表にまとめる。 ○ご恩と奉公の関係をまとめる。 ☆武士の政治が始まり、鎌倉幕府は土地を仲立ちとした「ご恩と奉公」の仕組みで武士たちを支配していたこと。
-------------------------	---	---

## 6. 本時の指導 (第1 / 5時)

### (1) 本時のねらい

武士の館を、貴族の屋敷と比較して見ることを通して、武士の生活の様子や武士が自分の領地を守るために常に戦いに備えていたことに気付き、武士の世の中についての問題意識を高める。

### (2) 本時における考え合い表現し合う活動と指導の留意点

教科書 p.32 (貴族の屋敷) と p.38~39 (武士の館) のイラストの比較が、本時の活動の中心である。子どもは、武士の館のイラストから、どんな人がいるか、何をしているか、建物や周りの様子はどうかなど、たくさんことに気付くだろう。しかし、それは資料から見つけたことの羅列にすぎない。本単元のねらいである「武士の世の中の様子」に着目させるためには、貴族の世の中の様子を**比較の対象として提示**し、時代が大きく変わり、武士が力をもつ世の中になったことに気付かせる必要がある。そのために、貴族の屋敷を提示し**違いに目を向けさせる**ことで、武士の暮らしと戦いは切っても切れない関係にあったことに気付かせたい。

二つのイラストを、実物投影機やプロジェクターで大きく映したり、拡大コピーして黒板に貼ったりして、それらのどこを指して発言しているのかを確認しながら、**気付きの共有化を図る**ことができるようにして学習を展開する。

### (3) 本時の展開

時配	○学習活動 T:発問 C:児童の反応	◎資料 ◇留意点 ◆評価
10	○武士についてのイメージを広げる。 T: 武士とはどんな人だと思いますか? C: 戦う人。戦士。 C: さむらい。 C: 刀で戦う人。 ○本時の課題を提示する。 T: 本時の課題「武士はどのような暮らしをしていたのだろうか?」について資料を通して考えましょう。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; width: fit-content;">武士はどのような暮らしをしていたのだろうか?</div>	◇生活経験から感じている武士のイメージを引き出し、本時の学習課題につなげていく。  ◇既習として貴族の生活を想起させると、貴族と武士の生活の違いに目が向く。

<p>25</p>	<p>○「武士の館」と「貴族の屋敷」を提示する。  <b>T</b>：武士の館と貴族の屋敷を比べ、違いを見つけましょう。</p> <p><b>建物のつくりや大きさ</b></p> <p><b>C</b>：武士の館は貴族の屋敷に比べて質素。  <b>C</b>：広さも貴族の屋敷よりは小さいように見える。  <b>C</b>：塀や堀で囲まれている。</p> <p><b>庭や周りの様子</b></p> <p><b>C</b>：館の周りでは水田が広がっている。  <b>C</b>：館の中でも野菜を育てている。  <b>C</b>：貴族の屋敷と違い、池や橋などはない。  <b>C</b>：戦いに使うために馬を飼っている。  <b>C</b>：外では、馬に乗りながら弓矢を放つ練習をしている。</p> <p><b>人の様子</b></p> <p><b>C</b>：物見櫓から人が見張っている。  <b>C</b>：鎧を着けている人がいる。  <b>C</b>：庭で遊んでいる人はいない。武芸の訓練や武具の手入れをしている。</p>	<p>◎教科書 p.32「貴族の屋敷」、p.38～39「武士の館」</p> <p>◇一人一人の気付きを共有するために、屋敷と館の想像図を大きく印刷したり、プロジェクターで大きく投影したりするとよい。</p> <p>◇「建物のつくりや大きさ」・「庭や周りの様子」・「人の様子」の3つに分けて板書する。</p> <p>◆資料を通して、武士の生活の様子を貴族の屋敷との比較の視点から読み取っている。  (技能／ノート)</p>
<p>10</p>	<p>○武士の暮らしの特徴について考える。  <b>T</b>：武士の暮らしにはどのような特徴がありますか？  <b>C</b>：武芸に励むなど戦いに備えている。  <b>C</b>：一族や家来とともに、領地を守る生活をしていた。</p> <p>○「一所懸命」という言葉を紹介する。  <b>T</b>：武士の暮らしを象徴する言葉に「一所懸命」があります。これは、「領地を守るために命をかけて戦う」という意味です。</p> <p>○単元の学習問題を提示する。  <b>T</b>：この単元では「武士が現れて、世の中はどのように変わったのか。」ということについて、学習していきましょう。</p>	<p>◆資料から読み取ったことを根拠に、武士の暮らしの特徴について考えている。  (思・判・表／ノート)</p> <p>◇単元を通して、「土地（領地）」がキーワードになるので、「なぜ命をかけてまで領地を守るのか」という問題意識を引き出したい。</p> <p>◇教科書 p.39 の年表を用いて、約700年間、武士の世の中が続いたことを伝える。</p>

つかむ

調べる

まとめる

深める

～家康による上水道整備事業の意図について、考え合い意見文に表す活動～

### 1. 小单元名『幕府の政治と人々の暮らし』

(教科書：『小学社会 6 上』 p.64～74／学習指導要領：内容（1）オ）

### 2. 小单元の目標

江戸幕府による政治を調べる活動を通して、参勤交代や鎖国などの政策や城下町の整備によって政治が安定したことに気づき、江戸幕府が 265 年間続いた理由が分かる。

### 3. 小单元の評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	観察・資料活用の 技能	社会的事象についての 知識・理解
江戸幕府の政治に関心をもち、意欲的に調べようとしている。また、人々の暮らしや身分について、関心をもって考えようとしている。	江戸幕府が 265 年間続いた理由について、徳川家康、秀忠、家光の 3 人が行った政治を根拠に考え、表現している。	江戸幕府が 265 年間続いた理由について、地図や年表、その他資料を活用して調べたことを作品やノートにまとめている。	徳川家康や家光の働きによって、武士を中心として身分制度が確立し、江戸幕府の政治が安定したことが分かっている。

### 4. 指導にあたって

#### (1) 児童の実態

蛇口をひねればきれいな水が出てくる現代において、子どもが昔の水道事情に思いを馳せる機会は少ない。江戸時代、生活に欠かせない水をどのように使用していたのか、また上水道の整備を第一に考えた徳川家康の意図は何だったのかを考える時間を小单元の中に設けることで、子どもの興味・関心を高めることができると考えた。

#### (2) 教材について

江戸時代を教材化する時に、多くは「統制」というキーワードで単元を構成する。しかし、家康から家光までの 3 代が行った政治を総合的に判断すると「統制」だけでは足りない。そこで本单元では「統制＝政治の安定」に「城下町の整備＝生活の安定」という視点を加え、江戸幕府の安定を捉えるようにする。

そこで、「城下町の整備」の重要性を子どもが理解できるように、「深める場面」で家康が行った上水道の整備を取り上げる。江戸のまちが世界的にも例を見ない 100 万人の大都市になったのは、塩害がひどく住みにくい江戸のまちを、様々な事業で住みやすいまちに変えた家康の功績と言っても過言ではない。城下町の整備が政治や生活の安定につながるという見方や考え方は、仙台藩を治めた伊達家、金沢藩を治めた前田家など諸大名の藩政を見る時にも生かすことができる。

#### (3) 指導上の工夫・留意点

本小单元での子どもの追究意欲を持続させるため、単元を貫く学習問題を設定する。これまでの

学習では、「安定」と「戦い」を繰り返してきた日本の歴史を学んできた。鎌倉や室町，戦国時代と比べて，江戸時代は 265 年という長い期間続いた時代である。明治から平成までを考えても，まだ 150 年ほどである。「なぜ，江戸幕府はそんなに長く続くことができたのか。」という子どもから生まれる疑問を整理し，単元を貫く学習問題を設定する。

## 5. 小単元の指導（総時数 7 時間）

時数	ねらい	○学習活動 ☆内容
① (つかむ)	鎌倉幕府や室町幕府と比較する活動を通して，江戸幕府が長く続いた理由に興味をもつことができるようにする。	○年表をもとに江戸幕府が長く続いたことを読み取り，分かったことをまとめ，学習問題をつかむ。 ☆江戸幕府は 1603 年に徳川家康によって開かれ，以後 1868 年まで 265 年間続いたこと。
① (調べる)	参勤交代や大名の配置，武家諸法度について調べ，幕府が強い力で全国の大名を統制する仕組みを整えたことが分かる。	○大名行列想像図や大名の配置図，武家諸法度などの資料をもとに調べ，分かったことや考えたことをまとめる。 ☆江戸幕府は，家康－秀忠－家光の 3 代で全国の大名を統制する仕組みをつくりあげたこと。
① (調べる)	外国との関わりについて調べ，鎖国や禁教などの政策を通して，外国の情報や貿易の利益を幕府が独占したことが分かる。	○キリスト教の取りしまりの図やふみ絵，長崎の出島の様子を表したイラストをもとに調べ，分かったことや考えたことをまとめる。 ☆江戸幕府は外国との関わりも統制することで，外国の情報や利益を独占することに成功したこと。
① (調べる)	鎖国のもとで行われた外国との交流について調べ，朝鮮や琉球，アイヌ民族との交易が，鎖国下の日本に大きな影響を与えたことが分かる。	○朝鮮通信使や琉球の使節，アイヌ民族の様子を表した資料をもとに調べ，分かったことや考えたことをまとめる。 ☆鎖国のもとでも，いくつかの地域との交流を行い，朝鮮や中国の文化が日本に伝えられていたこと。
① (調べる)	江戸時代の人々の暮らしと身分について調べ，上下関係を細かく分けることや，それぞれの身分に課す負担をはっきりさせたことで，幕府が人々を治めていたことが分かる。	○町人の暮らしや百姓に対する法令などの資料をもとに調べ，分かったことや考えたことをまとめる。 ☆世の中を支える武士と，武士を支える身分をはっきり区別したこと。百姓や町人の身分を区別し，さらにその下の身分も設けたこと。
① (調べる)	徳川家康が上水道の整備に力を注いだ意図を考え，話し合う活動を通して，家康が行った事業の価値を意見文に表すことができる。	○地図帳や水道遺構の資料をもとに考え，考えたことをもとに話し合う。 ☆住みにくい江戸の地を住みやすいまちに変えることで，人やものや金の動きを活性化し，人々の生活及び幕府の政治を安定させたこと。

① (ま と め る)	江戸幕府が行った政治について、大名や外国，人々を統制する仕組みづくりと，城下町づくりの視点に分けて，年表にまとめることができる。	○教科書 p.74 を参考に，年表づくりをする。できごとを書くだけではなく，政策とまちづくりの視点に分けてまとめる。 ☆江戸幕府が 265 年間続いたのは，統制する仕組みを整えたことと，世界にも誇れる城下町を整備したことが理由であること。
-------------------------	--	--

## 6. 本時の指導（第 6 / 7 時）

### (1) 本時のねらい

徳川家康が上水道の整備に力を注いだ意図を考え，話し合う活動を通して，住みにくい江戸の地を住みやすいまちに変えることで人やものや金の動きを活性化したことに気付き，家康が行った事業の価値を意見文に表すことができる。

### (2) 本時における考え合い表現し合う活動と指導の留意点

本時では，徳川家康が行った上水道整備について，**討論する活動を通して考えを深め，意見文にまとめる**。子どもは，前時までに江戸幕府が行った政治について学んでいる。しかし，江戸幕府が 265 年も続いた理由は，鎖国や，大名と人々を統制する仕組みだけではなかったのではないかと，という問いを子どもはもっている。それは，安土城下に水路を引いたり楽市楽座を設けたりして商工業を発達させた信長や，大阪城下の物流を盛んにして莫大な財を築いた豊臣秀吉について学んでいるからである。それらの**既習を生かして，家康が城下町をつくることに力を尽くした意味は何かという問いをもち**，上水道の整備という具体的な施策について調べ，考え合いながら追究していく。

### (3) 本時の展開

時配	○学習活動 T：発問 C：児童の反応	◎資料 ◇留意点 ◆評価
15	<p>○前時までに調べて分かったことを整理する。</p> <p>T：江戸幕府が 265 年間続いた理由が分かりましたか。</p> <p>C：大名の配置を工夫したり，参勤交代の制度を取り入れたりしたから続いたことが分かりました。</p> <p>C：外国との関係も，鎖国をすることで情報や利益を独占できたことが大きかったと思います。</p> <p>C：でも，まだ何か理由がありそうな気がします。</p> <p>T：なぜそう思うのですか。</p> <p>C：織田信長も豊臣秀吉も城下町を整備していたから。</p> <p>C：徳川家康も江戸城の城下町を整備していそう…。</p> <p>T：実は，1590 年に国替えされて江戸に入った家康は真っ先にあることをしました。</p> <p>C：城づくりかな。政治の拠点になるので。</p> <p>C：新田開発かな。食料の確保が大事なので。</p>	<p>◎ノート</p> <p>◇江戸幕府が行った政策について振り返るよう指示し，既習を想起できるようにする。</p> <p>◇織田信長や豊臣秀吉が行った政治を想起した子どもの意見を取り上げ，城下町の本整備に意識が向くようにする。</p> <p>◇予想を立てることで，「城づくりでも水田づくりでもなく，な</p>

	<p>T: どちらも違います。最初にしたのは水道の整備です。井の頭池の湧水を、水道をつくって引っ張りました。</p> <p>C: え！すごい。でもなぜ水道なんだろう。</p> <p>○本時の学習問題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>なぜ、徳川家康は江戸に入ってすぐに上水道の整備に取りかかったのだろう。</p> </div> <p>T: では、まず自分の考えをノートにまとめてみましょう。</p>	<p>ぜ上水道整備なのだろう。」という問いが生まれるようにする。</p> <p>◇考える時間を確保し、討論に向けた準備ができるようにする。</p> <p>◎教科書、資料集、写真など</p>
20	<p>○個人で考えたことを、学級全体で討論する。</p> <p>T: それでは、考えたことを教えてください。</p> <p>C: 私は、水は生活に欠かせないものなので、まず水道整備に取りかかったのだと考えました。</p> <p>C: 依っています。水は料理、洗濯に欠かせません。</p> <p>C: 生活だけではなく、作物を作るのにも、製品を作るのにも水は必要です。</p> <p>T: 今話した人たちは、水の重要性という視点で考えたのですね。別の視点で考えた人はいますか。</p> <p>C: 私は、家康が先を見通して作ったのだと思います。当時、水道は珍しいはずです。それを江戸に作ることでたくさんの人を住ませようとしたのだと思います。</p> <p>C: 確かに、水道があるまちに住みたいと多くの人が思うと思います。人が集まれば、物も集まり、まちが活性化します。</p> <p>C: 商売もさかんになって、お金もまわります。</p> <p>C: どんどんまちが活性化され、大都市になります。</p> <p>T: 先を見通して作ったという考えですね。実際に江戸のまちは、教科書 p.77 に書いてあるように人口 100 万人の大都市になったわけです。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>家康は、人々が生活しやすいまちをつくり、江戸のまちを発展させるために上水道の整備をしたんだね。</p> </div>	<p>◎ノート</p> <p>◇似た考えがつながるように話し合いを進めていく。</p> <p>◇「水の重要性」に触れた視点の考えを板書にまとめる。</p> <p>◇別の視点の考えを引き出す。</p> <p>◇似た考えがつながるように話し合いを進めていく。</p> <p>◇「家康の先見性」に触れた視点の考えを板書にまとめる。</p> <p>◇両方の視点の意見を合わせて、学習問題に対するまとめをしていく。</p>
10	<p>○徳川家康が行ったことの価値を意見文にまとめる。</p> <p>T: みなさんが予想したように、家康も城下町の整備に力を注いでいたのですね。</p> <p>C: 織田信長や豊臣秀吉と同じでした。</p> <p>T: まちの整備は今の時代にも通じる大事な政治の一つですね。教科書 p.147 を参考にして、家康から学んだことを意見文にまとめてみましょう。</p> <p>C: (意見文を書く)</p>	<p>◇住みやすいまちづくりは現代にも通じる営みであることに触れる。</p> <p>◆自分が考えたことや、討論の中で聞いた友達の考えを根拠に、家康の営みについて自分なりの意見を文章に書いている。(思・判・表/意見文)</p>

つかむ

調べる

まとめる

深める

## ～単元を貫く問題意識の形成を図る、「条約改正」導入部の活動～

### 1. 小単元名『新しい時代の幕あけ』

(教科書：『小学社会 6 上』 p.88～104／学習指導要領：内容（1）キ）

### 2. 小単元の目標

黒船の来航，明治維新，文明開化などについて調べ，政府は欧米の文化を取り入れつつ諸改革を行ったことや，この当時の我が国の近代化が進んでいった様子がわかる。

### 3. 小単元の評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	観察・資料活用の 技能	社会的事象についての 知識・理解
明治維新後，我が国の近代化が進められたことや，憲法が發布されたことに関心をもち，自分たちの生活と関連付けて考えるなどして意欲的に調べている。	欧米の文化を取り入れ，近代化を進めたことによる当時の人々の生活の変化について，学習問題や学習計画を考え，表現している。	肖像画や，錦絵，当時の人物のエピソードや資料などから，近代化が進む我が国の様子について調べ，まとめている。	政府は廃藩置県や四民平等などの諸改革を行い，欧米の文化を取り入れながら新たな政治や社会の仕組みを整えていったことを理解している。

### 4. 指導にあたって

#### (1) 児童の実態

戦国時代や江戸時代の学習に興味をもって取り組んできた子どもでも，武士による政治の時代が終わるということをイメージするのは容易なことではない。また，事象に関わる用語や歴史上の人物が多いと，文字を追っていくだけで精一杯になってしまうおそれもある。本単元では，それぞれの社会事象のつながりを意識し，関連付けながら学習していくことが重要であると考えた。

#### (2) 教材について

本単元では，武士による政治が行われていた時代から大きく転換する時期について学ぶ。前単元の学習で，子どもは，蘭学など新しい知識を外国から取り入れる必要性が高まっていると感じている。その点を踏まえ，本単元の導入では，黒船来航の場면을クローズアップし，日本と欧米の国力の違いに着目させることで，不平等条約をどのようにして改正へと導くのか，という単元を貫く問題意識や学習意欲が形成・喚起されると考えた。そして，「近代化を図る必要がある」という漠然とした理解ではなく，「国力を高めるためにどんなことが必要か」を具体化に調べ，考えることを通して，日本の近代化の過程に対する理解が深まるようにしたい。

#### (3) 指導上の工夫・留意点

導入部の黒船来航の学習場面で形成された問題意識と喚起された学習意欲を，単元を貫く軸にして，そのあとの各時で取りあげる歴史的な事象（政治の仕組みや社会の様子の変化）が，条約改正と

どのように関わりがあるのかを確かめながら学習を進めていくようにした。

### 5. 小単元の指導（総時数 8 時間）

時数	ねらい	○学習活動 ☆内容
① (つかむ)	人々がペリーの来航をどのように受け止めていたのかを考えるとともに、不平等条約を結んだことがどんな影響を及ぼすかに興味をもつことができるようにする。	○ペリー来航の資料を読み取り、船の大きさや艦隊の人数などの比較から学習問題をつかむ。 ☆ペリー来航や外国の威力に日本人は驚いたこと、日本の力が外国よりも劣っているから不平等な条約が結ばれてしまったこと。
① (調べる)	不平等条約の影響によって国内が不安定になり、幕府の力が低下していったことがわかる。	○百姓一揆や打ちこわしと、その背景を調べることで、新しい政府の必要性を理解する。 ☆不平等条約締結をきっかけに幕府が衰退したこと。
① (調べる)	条約改正に向けて新しい政府が目指した政治はどのようなものかを考え、社会の仕組みが整っていく様子を調べることができる。	○使節団や留学生の資料をもとに、新しい政府の目指した政治の考え、新しい国の基盤づくりの様子をつかむ。 ☆新しい政府の仕組みは欧米諸国を手本に整えられていったこと。
① (調べる)	政府の行った様々な改革について調べ、それらは何のための、どのような改革だったのかがわかる。	○富国強兵政策のもとに行われた諸改革を調べる。 ☆地租改正によって財源を安定させようとしたこと、徴兵令により兵力を確保したこと、殖産興業により外貨獲得を目指したこと。
① (調べる)	様々な改革により人々の暮らしがどのように変化したのかを調べ、人々の暮らしも欧米諸国のように変化していったことがわかる。	○文明開化の様子を衣・食・住の視点や学問の視点から調べ、これまでの生活との変化に気付く。 ☆欧米諸国の影響から、人々の生活の様子が西洋風に変わっていったこと。
① (調べる)	明治維新が進むことで、国民の政治に対する関心が高まり、自由民権運動が全国へと広がっていったことがわかる。	○自由民権運動の広がる様子を調べることで国会開設を求める人々の願いがどのようなものかを考える。 ☆国民の声を聞いて政治を進めるべきだという考えから自由民権運動が広がっていったこと。
① (調べる)	大日本帝国憲法の制定により主権が天皇にあることや、言論の自由や選挙権が法律の範囲内で認められたことがわかる。	○大日本帝国憲法の発布式の様子や憲法の特徴を調べ、日本の政治の仕組みが近代化したことの影響を考える。 ☆大日本帝国憲法の制定により近代国家の仕組みが整ったこと。
① (まとめる)	これまで学習してきた様々な改革が不平等条約の改正につながるかどうかを振り返ることができる。	○不平等条約改正への道のりがどの程度達成されたのかという視点からこれまでの学習内容を振り返り、まとめる。 ☆ノートや新聞などにまとめ、振り返ること。

## 6. 本時の指導（第1／8時）

### （1）本時のねらい

ペリー来航の様子に関わる資料を読み取る活動から、人々がペリーの来航をどのように受け止めていたのかを考えるとともに、不平等条約の締結が及ぼす影響について興味をもつことができる。

### （2）本時における考え合い表現し合う活動と指導の留意点

導入に用いる資料は、教科書に掲載されている絵画（「ペリー艦隊と防備を固める人々」）である。この資料を細部まで読み取り、気づいたことを発言し合うことで、ペリー来航の様子だけでなく、日本と外国の力の差ということに気づかせる。具体的には、外国船は蒸気が動力になっているということ、日本の船とは大きさが格段に違うということをとらえさせる。導入資料の読み取りを行ったあと、「幕府がすぐに開国に踏み切れなかったのは、なぜだろう」と問いかけ、その理由について考え合う。この場面では、**追究に生かす資料**を提示して、動力、装備、乗組員数などを比較させる。

最後に、ペリーの肖像画を提示し、日本人が抱いたペリーに対するイメージについて話し合う。それらの活動を通して、**単元を貫く問題意識や学習意欲の形成と喚起を図る。**

### （3）本時の展開

時配	○学習活動 T：発問 C：児童の反応	◎資料 ◇留意点 ◆評価
10	<p>○前時までにはわかったことを振り返る。</p> <p>T：江戸時代の人々の様子からどんなことを学習してきましたか。</p> <p>C：新しい文化や学問が発達した。</p> <p>C：寺子屋や藩校などが開かれ、蘭学など西洋の学問にも関心がもたれた。</p> <p>T：1853年の夏、アメリカ合衆国の使節ペリーが4隻の軍艦を率いて浦賀沖に現れました。その時の様子を描いた浮世絵があります。どんなことがわかりますか。</p> <p>C：大きな船が描かれている。</p> <p>C：陸では大騒ぎになっている。</p> <p>C：大砲が船に向けられている。</p>	<p>◇前単元の学習を振り返り、人々の目が国外に向き始めていたことを確認する。</p> <p>◎教科書 p.90 資料ア</p>
20	<p>T：ペリーは日本に開国を求めました。幕府は開国することを決めることができずにいました。幕府が開国に踏み切れずにいた理由はなぜかを考えてみよう。</p> <p>○開国に踏み切れなかった理由を個別に考え、ノートに書く。</p> <p>C：外国の力が強いから日本が占領されてしまうのではないかと考えた。</p> <p>C：外国の武力に幕府の力が敵わないのではないか。</p>	<p>◇教科書の記述を参考にし、幕府が開国か鎖国かを決めることができずにいたことを確かめ、その理由を考える。</p>

<p>10</p>	<p>C: これまで続けてきた鎖国を簡単にやめてしまうと、幕府の力が弱くなっていると思われるのではないか。</p> <p>○資料からわかることを確かめる。</p> <p>T: 資料に描かれていた船について調べてみよう。</p> <p>ペリーの乗ってきた船はサスケハナ号。2450 トンで300 人乗り。蒸気船で大砲を搭載していた。日本の船は千石船が 150 トンで 15 人乗り。</p> <p>C: 船の大きさにびっくりすると思う。</p> <p>C: こんなに違いがあるなら外国に逆らえないと思ってしまふのではないか。</p> <p>○不平等条約が締結されたことと、条約の内容を確かめる。</p> <p>T: アメリカの武力をおそれて幕府は条約を結び、開国に踏み切りました。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>1854 年 日米和親条約</p> <p>1858 年 日米修好通商条約</p> </div> <p>C: 不平等な条約はいやだね。</p> <p>C: どうにかして条約改正をしたいな。</p> <p>○日本人の描いたペリーの肖像画を確かめる。</p> <p>C: 武力を背景に開国を迫るのだから、恐ろしいと思ったはずだね。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>日本は、どのようにして不平等条約を改正していったのだろう。</p> </div>	<p>◎ペリーの乗ってきた軍艦のことが詳しく書かれている資料を用意して提示する。</p> <p>◇日本の船と比較する。</p> <p>◇不平等条約が結ばれたことを伝え、どんな条約だったかを確かめる。</p> <p>◎ペリーの肖像画</p>
<p>5</p>	<p>○調べる計画を立て、ノートにまとめ、交流する。</p> <p>T: どうなったら条約を改正できるだろうか。</p> <p>C: 日本が力をつけていかないと条約を改正できないね。</p> <p>C: いろいろな技術力をつけないといけないね。</p> <p>C: 蘭学などの新しい学問のように、外国にならっていくことが必要なのではないかな。</p>	<p>◆どのようなことに取り組めば不平等条約を改正していくことができるかを考え、それについて調べる計画を具体的に立てている。</p> <p>(思・判・表／ノート)</p>

つかむ

調べる

まとめる

深める

## ～鉄道敷設の意味について、異なる立場から考え合う活動～

### 1. 小单元名『新しい時代の幕あけ ―鉄道敷設から見える近代化―』

(教科書：『小学社会 6 上』 p.88～104／学習指導要領：内容（1）キ）

### 2. 小单元の目標

明治政府の打ち出した様々な近代化政策について調べ、近代化を強く推し進めていくことが、西  
欧列強から日本の独立を維持することにつながったことや、それに伴って当時の人々の暮らしが大  
きく変化したことがわかる。

### 3. 小单元の評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	観察・資料活用の 技能	社会的事象についての 知識・理解
明治新政府の国づくり の様子に関心をもち、意 欲的に調べようとしてい る。また、近代化してい く日本のあり方につい て、関心をもって考えよ うとしている。	鉄道の敷設によっ て、近代化がどのよう に国づくりに関係して いるかを考察してい る。	明治新政府の対応や 周辺の国々の様子につ いて資料から読み取 り、表現している。	日本の「近代化」に ついて、「産業の近代 化」と「意識の近代化」 の両面から理解してい る。

### 4. 指導にあたって

#### (1) 児童の実態

これまで、稲作の伝来、仏教文化や政治システムの吸収など、「外国とのつながり」と、それがど  
のように人々の意識に変化をもたらしてきたかを学んできている。一方、本単元で取り上げる鉄道  
は、子どもにとって身近なものではない。石炭の価値についても、実感することは難しい。明治の  
「人々の意識」にどのように目を向けさせるかが課題である。

#### (2) 教材について

本単元では、「近代化」を核に、明治政府の国づくりをとらえさせる。様々な近代化政策を調べる  
ことで、子どもたちは、「新しい制度や文化は人々の暮らしを豊かにしている。」と、とらえる。し  
かし、実際は改革断行による混乱、凶作、重税、物価高騰などにより、世直し一揆が全国で多発し  
ている。それにもかかわらず、なぜ、伊藤博文と大隈重信は鉄道の敷設にこだわるのか。その問題  
を考えることから、「産業を発達させ、経済・軍事面で西洋列強に対抗する『モノの近代化』」と、「国  
民を封建的な世の中から脱皮させる『意識の近代化』」の両面が見えてくるのである。

#### (3) 指導上の工夫・留意点

2つの比較を設定する。一つは、本時まで、新橋・横浜間（30分の1）の距離を子どもたちは  
歩く。自分が徒歩でかかる時間と、鉄道がかかる時間とを比較することで、当時の人々の驚きや意

識の変化を実感させる。次に、本時の後半では、新橋・横浜間の地図と日本地図を比較する。29 kmの鉄道敷設は、日本全体から俯瞰して見ると僅かであるが、この30数年後には全国に鉄道網は張り巡らされ、わが国の近代化の根幹を担っていく。新政府がその浮沈をかけて行ったこの事業から、近代化の意味を子どもたちは考えていくのである。

## 5. 小単元の指導（総時数 11 時間）

時数	ねらい	○学習活動 ☆内容
① (つかむ)	江戸の町の様子と文明開化後の2枚の錦絵を読み取り、比較しながら、単元を貫く課題「新しい国づくりは、どこで学んで、どのように進められたのだろう」を生む。多数の相違点に気付いていく過程で追究意欲を高める。	○まちの風景が変わった (p.88～89) 2つの資料、「1860年頃の江戸の町の様子 (p.88 ア)」と「明治初め頃の東京の様子 (p.98 ア)」を比較し、錦絵にある衣服、建築物、交通などに着目しながら、その変化が僅か約10年であった事実を提示する。そこから「どうして、町の様子は変わったのだろうか？」という学習問題を生む。 ☆わずかな期間で、大きく様変わりした「人々の暮らし」。
① (調べる)	西欧列強が日本を圧倒していたのは新エネルギー「石炭エネルギー」にあることがわかる。	○黒船が来た (p.90～91) 資料ア「ペリー艦隊と防備を固める人々」を読み取る。混乱している人々の様子や資料イ「日本人が描いたペリー」から「黒船の来航は、世の中にどのような影響を与えたのだろうか？」という問題を生み、資料エ「ペリー艦隊の航路や不平等条約の内容から、開国の目的や西欧列強の力を明らかにする。 ☆ペリーの来航の目的や、幕府が結んだ不平等条約の内容。
① (調べる)	「開国」が「物価高」を引き起こし、世の中が不安定になったこと、武士の時代が終わったことがわかる。	○江戸幕府が倒れる (p.92～93) 資料ア「江戸で起こった打ちこわし」を読み取る。資料イの一揆・打ちこわし件数が増加していることから「開国によって、幕府の政治はどう変わったのだろうか？」という問題を生み、追究する。 ☆開国と、幕府の衰退・終焉との関係。
① (調べる)	岩倉使節団の米欧派遣について調べ、それが西洋化を目指す第一歩であったことを明らかにする。	○新しい政府をつくる (p.94～95) 資料ア「外国を訪れた使節団」を読み取り、明治政府のリーダーたちが長期間米欧を訪れた理由を考え、「新しい政府はどのような政治を目指したのだろうか？」という問題を生み、追究する。 ☆西洋の新しい技術や仕組み（蒸気エネルギー、製鉄技術、大陸横断鉄道、軍艦、兵器工場、国会など）を採り入れようとした明治政府。

① (調べる)	明治政府のスローガン「富国強兵」や「殖産興業」の意味を富岡製糸場の建設から考えさせる。	○西洋に追いつけ① (p.97) ～殖産興業～「富岡製糸場」は官営工場であったことを提示し、「政府は何のために自ら工場をつくったのか？」という学習問題を生む。富岡製糸場が世界最高品質の生糸を製造していた意味を「不平等条約の改正」と関係付けながら追究する。 ☆「富国強兵」「殖産興業」と「不平等条約改正」の関連。
① (調べる)	本単元の核となる概念「近代化」を、鉄道敷設事業を西洋列強に対抗する「モノの近代化」と、国民を封建的な世の中から脱皮させる「意識の近代化」の両面に目を向けさせながらつかませる。	○西洋に追いつけ②鉄道開通と近代化 (p.96) 鉄道敷設への反対理由を「国民」「軍」「政府」の立場からそれぞれ提示し、「なぜ、伊藤博文と大隈重信は鉄道開通を急いだのだろうか？」という学習問題を生む。また、日本地図上に表された新橋・横浜間は僅かな距離に過ぎないことを提示し、そこをスタートに、わが国の近代化の根幹を担っていったことに気付かせる。 ☆当時の日本における鉄道敷設がもたらした「近代化」。
① (調べる)	近代化のベースになるのは、「ものづくり」だけでなく、「人づくり」が重要であることを捉えさせる。	○人々の暮らしが変わった (p.98～99) 資料 <sup>イ</sup> 「学校に通った子どもの割合」と資料 <sup>ウ</sup> 「小学校の授業風景」から「明治政府は、どうして義務教育を始めたの？」という問題を生む。 ☆西洋の新しい技術や仕組み（蒸気エネルギー、製鉄技術、大陸横断鉄道、軍艦、兵器工場、国会など）を採り入れようとした明治政府。
① (調べる)	板垣退助の思いから、当時の政治と人々の思いが一致しないことに気付かせ、板垣の願いについて考える。	○自由民権運動が広まる (p.100～101) 「人々は政府にどのような政治を期待したのだろうか？」
① (調べる)	国づくりのベースは「人づくり」であることを、大日本帝国憲法と五日市憲法を比較しながら追究していく。	○国会が開かれる (p.102～103) 「憲法が制定されて政治はどのように変わったのだろうか？」
① (まとめる)	江戸幕府が倒れる前と後の世の中の動きの関わりを、キーワードとともに西郷隆盛、木戸孝允、伊藤博文、大久保利通、お雇い外国人、福沢諭吉といった人物の目を通して追究していく。人物は各児童が選択する。	○キーワードに着目して学習を振り返ろう (p.104) 開国、百姓一揆、打ちこわし、明治維新、富国強兵、文明開化、自由民権運動、大日本帝国憲法

① (深める)	<p>お雇い外国人は、日本の近代化にどのように貢献したのかを追究する。</p> <p>日本国内に残る、数多くの「国宝」を紹介する。</p>	<p>○日本の社会や文化を見直す</p> <p>「なぜ、フェノロサは、大切に思った日本の美術品(『平治物語絵巻』など)を海外に送ったの？」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・軽視され、壊されることが多かった日本の伝統的な美術品を守るため。</li> <li>・日本の伝統的な美術品の良さや文化を、海外の人にも知ってもらい、広めていくため。</li> </ul> <p>「国宝」という概念をつくったのはフェノロサ。</p> <p>お雇い外国人たちは、日本の近代化に貢献しただけでなく、伝統的な日本のよさを守ることに貢献。</p>
------------	---	--

## 6. 本時の指導 (第6/11時)

### (1) 本時のねらい

明治初期の鉄道敷設について調べ、明治政府が産業の発展だけでなく、国民の意識も新しいものに変えることで、近代化をより進めようとしていたことがわかる。

### (2) 本時における考え合い表現し合う活動と指導の留意点

子どもは、鉄道の利便性については理解している。本時では、国家予算の1.5倍という鉄道の購入費に着目させる。閣僚の反対、軍備を優先したい軍部の思惑、一揆の多発という当時の状況について、説明を聞いたり資料から読み取ったりすることを通して「伊藤と大隈が鉄道を開通させようとしたのはなぜか」という問いをもつことができるようにする。そして、「産業の発展」と「国民の生活」の両面から話し合うことを通して、近代化の意味について考えを深めていく。

さらに、新橋・横浜間の開通の30数年後、全国に張り巡らされた鉄道の地図と比較することで、「なぜ、こんなに広がったのか」という問いをもち、その追究を通して、産業の発展と国民生活の関係をとらえ直す。その中で、国民に受け入れられること、国民の意識を新しいものにしていくことが国の近代化において重要であるということに気付かせていく。

### (3) 本時の展開

時配	○学習活動 T:発問 C:児童の反応	◎資料 ◇留意点 ◆評価
15	<p>○計測した「新橋・横浜間ウォーク」の結果を発表し、子どもたちがかかった時間と鉄道の時間を比較する。</p> <p>T:みなさんが歩くと半日以上かかるところを、鉄道が僅かな時間で到着したのですね。</p> <p>C:鉄道ってすごい!輸送力だけでなくスピードもアップ。</p> <p>T:でも、この鉄道敷設は大きな反対があったのです。</p> <p>C:良いことづくめなのに、どうして。</p>	<p>◎「新橋・横浜ウォーク」の写真を提示する。</p>

	<p>○資料をもとに、各方面からの反対についてとらえる。</p> <p>T：西郷隆盛や大久保利通ら新政府のリーダーからは、国家予算の1.5倍という費用を反対され、軍部からは軍艦を造るべきだと言われたのです。国民からは…</p> <p>C：国民は賛成だったと思います。</p> <p>T：世直し一揆が多発し、「税金を下げてください。」という声が全国各地で上がりました。鉄道は海の上も通ります。反対にあつて土地を取得できなかったからです。</p>	<p>◎西郷隆盛、大久保利通、軍艦の写真を提示する。</p> <p>◎各地で世直し一揆がおきている様子を、件数の棒グラフと発生地の地図で提示する。</p>
5	<p>C：なぜ、それでも鉄道を造ったのかな。</p> <p>T：それを今日の学習問題にしましょう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>なぜ、伊藤博文と大隈重信は鉄道を開通させたの？</p> </div> <p>T：自分の考えをノートに3分間で書きましょう。</p>	<p>◎伊藤博文と大久保利通の写真、当時の鉄道の絵を提示する。</p>
15	<p>T：全体で考えを話し合ひましょう。</p> <p>C：それまで日本を「遅れている国」と思っていた欧米列強から、一目置かれるようになるからだと思う。</p> <p>T：欧米という言葉が出ました。近い考えの人はいますか。</p> <p>C：欧米を驚かせて、すごいところを見せつけたい。</p> <p>C：そうすれば、植民地にもならずすむ。</p> <p>C：工業がさらに発展することも考えているのでは。</p> <p>T：なぜ、鉄道と工業が関係するのですか。</p> <p>C：人間が運ぶよりもたくさん、早く運べるから。</p> <p>T：それらをまとめると…</p> <p>C：産業の近代化。</p> <p>C：国民を驚かせたかったということもあると思います。</p> <p>T：驚かせて、どんなメリットがあるのですか。</p> <p>C：世直し一揆や打ちこわしは、明治政府を見くびっているから。こんなすごいものが造れるんだぞ、と思わせることで、国民は新政府を信頼すると思います。</p> <p>C：でも、税金がさらに高くなると困る。</p> <p>C：このままでは、いつまでたっても欧米に追いつけない。そのためには、お金をかけてでも、鉄道を造った方が国民のためにもなる。</p> <p>C：暮らしが便利になると、西洋化をもっと受け入れるはず。</p> <p>C：伊藤博文たちは、新しい世の中になったことを実感してほしかったんだと思う。</p> <p>T：実感するとどうなるのでしょうか。</p>	<p>◇机間指導を行い、「産業の発展」と「国民の意識」のどちらをとらえているかを把握しておく。</p> <p>◇できるだけたくさん書かせる。</p> <p>◇テンポよく簡潔に発表させる。</p> <p>◇似た考えを集約しながら、「産業」「意識」の近代化にアプローチする。</p> <p>◇抽象的な意見は、その根拠を明らかにしたり、具体的に述べさせたりしながら、概念化を図る。</p>

	<p>C：世直し一揆をしなくなるし、税金も払う。</p> <p>C：富国強兵には、国民の協力が必要だ。</p> <p>T：では、国民から見た方をまとめると…</p> <p>C：考え方や意識の近代化。</p> <p>○子どもたちの考えを整理する。</p> <p>T：みんなの2つの考えを整理しよう。産業が発達すると、国民の意識も変わる。国民の意識が変わると…</p> <p>C：協力的になり、産業がますます発達する。</p> <p>T：これらが繰り返される先にあるものは何だろう。</p> <p>C：西洋に追いつけるし、不平等条約がなくなる。</p>	<p>◇2つの意見を、時間軸を通して考えさせる。</p>
<p>10</p>	<p>T：なるほど。この鉄道は大きな意味があるんだね。でも、この新橋・横浜間は日本全体で見ると、ほんの僅かだよ。これで、本当に近代化につながるのだろうか。</p> <p>C：今は一つでも、この先どんどん増えていくはず。</p> <p>C：日本を体で例えると、血管みたいに、体中に張り巡らされると思う。</p> <p>○鉄道の営業距離伸張の地図を提示する。</p> <p>T：なぜ、こんなに鉄道が広まったのでしょうか。</p> <p>C：産業の発展が全国に広まっていった。</p> <p>C：特に石炭。たくさん運びたいはず。</p> <p>C：造っていた官営工場を結ぶこともできると思う。</p> <p>C：日本中の国民の意識も変わっていった。</p> <p>○各児童にキーワードでまとめさせる。</p> <p>T：今日のキーワードは「近代化」「産業」「意識」です。</p> <p>C：「伊藤博文と大隈重信は、鉄道の開通によって、産業の発展だけでなく、人々の意識を近代化させていった。」</p> <p>C：「鉄道による産業の近代化と意識の近代化は、国全体の近代化につながっていった。」</p> <p>T：振り返り（新たな疑問）を書き、交流しましょう。</p> <p>C：鉄道以外に、どのような近代化をしていったのだろうか。</p> <p>C：日本は、この後、不平等条約を改正できたのかな。</p> <p>C：近代化に成功したら、その先に日本はどんなことをしていったのだろうか。</p>	<p>◎新橋・横浜間の鉄道が記された日本の白地図を提示する。</p> <p>◇「石炭」「官営工場」などの既習事項もできるだけ拾っていききたい。</p> <p>◇キーワードは何にするかを考えさせる。</p> <p>◇必ず主述の通った一文になるように指導する。</p> <p>◇書けた児童同士、自由に交流させる。</p> <p>◆調べてきたことを根拠に、「近代化」の意味を具体的に捉えることができている。 (思・判・表／ノート)</p>

つかむ

調べる

まとめる

深める

## ～価値の更新を意図した、公共交通機関の意味をめぐる意見交換の活動～

### 1. 小単元名『わたしたちの暮らしを支える政治』

(教科書：『小学社会 6 下』 p.4～17／学習指導要領：内容（2）ア）

### 2. 小単元の目標

地方公共団体や国の政治の働きについて調べ、国民の願いを実現し、生活の安定と向上を図るために、政治の働きと国民生活は密接にかかわっていることをとらえる。

### 3. 小単元の評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	観察・資料活用の 技能	社会的事象についての 知識・理解
地方公共団体や国の政治の働きに関心を持ち、意欲的に調べようとしている。また、これからの政治のあり方について、関心をもって考えようとしている。	地方公共団体や国の政治の働きと国民生活とを関連付け、政治は国民生活の安定と向上を図るために大切な働きをしていることについて考え、適切に表現している。	地方公共団体や国の政治の働きについて必要な情報を集め、読み取っている。	地方公共団体や国の政治は国民生活の安定と向上を図るために大切な働きをしていることを理解している。

### 4. 指導にあたって

#### (1) 児童の実態

政治家や税金という言葉にマイナスのイメージをもっている子どもは少なくない。また、そもそも自分の生活と政治のはたらきがつながっていると感じていない子どももいる。そこで、教科書で取り上げられている施設や事柄を、子どもにとって身近なものに置き換えて具体的に学習することが重要であると考えた。

#### (2) 教材について

本小単元では、地域の公共施設を調べる活動から地方公共団体のはたらきを学ぶ。そして、そのはたらきを支えている税金について学んだあと、国の政治のはたらきへと視点を広げていく。本校では放課後に子どもを預かる「ミニ児童会館」が運営されている。そこで、このミニ児童会館がどのような経緯で本校に設置されたのかについて前半は追究していく。次に、これらの活動を支える税金の役割について考える。また、国会や内閣、裁判所の働きについても、選挙権年齢が18歳に引き下げられたことなどを取り上げ、具体的に学べるように工夫した。

そして、まとめる段階で税金の使い方についてももう一度考えることで、子どもの政治のはたらきに対する見方や考え方を高めることができる。

(3) 指導上の工夫・留意点

本小単元は、子どもにとって普段はあまり意識をしていない政治のはたらきについての学習である。そのため、ミニ児童会館を利用している人へのインタビュー等、具体的な活動を取り入れるように工夫した。また、インターネット等のICTを活用したり、税務署からゲストティーチャーを招いたりすることで理解を深められるようにした。

5. 小単元の指導（総時数8時間）

時数	ねらい	○学習活動 ☆内容
① (つかむ)	ミニ児童会館を通して政治のはたらきについて調べていこうとする意欲を高める。	○自分の周りにある政治のはたらきについて交流することで学習問題を生み、単元の見通しをもつ。 ☆政治のはたらきは地域住民の要望と結びついている。
① (調べる)	インタビュー活動を通して、地域の公共施設は住民の要望によってつくられていることを理解する。	○ミニ児童会館を利用している人や、そこで働いている人にインタビューを行う。 ☆ミニ児童会館があると安心して子どもを預けられ、保護者が働きやすい環境が整えられる。
① (調べる)	ミニ児童会館がつくられるまでの過程を理解する。	○札幌市役所の担当部署に質問を行い、ミニ児童会館がつくられるまでの過程を調べる。 ☆住民の要望から計画ができ、予算案が作られ市議会の議決を得ることでミニ児童会館がつけられた。
① (調べる)	税金はどのように集められて、どのように使われているのかを理解する。	○税務署からゲストティーチャーを招き、税金の役割について学ぶ。 ☆税金があるから、ミニ児童会館だけでなく、警察や消防等をみんなが平等に無料で利用することができる。
① (調べる)	国会は法律をつくったり国の予算を決めたりしていることを理解する。	○選挙権年齢が18歳に引き下げられるまでの過程を調べる。 ☆法律をつくったり国の予算を決めたりする重要な仕事を行うので、二つの議院で話し合い、国の政治の方針を慎重に決定している。
① (調べる)	内閣は国会で決められた法律や予算をもとに仕事を行ったり、予算案や法律案をつくったりしていることを理解する。	○国の予算と内閣の仕組みの資料を関連付けて読み取ることによって様々な府・省・庁の働きを調べる。 ☆厚生労働省は安心して子どもを産み育てることができる社会を目指して子育ての環境を整備している、等。
① (調べる)	裁判所は人々の間で争いごとや犯罪が起こった時に解決する仕事を行っていることや、権力が集中しないように三権が分立されていることを理解する。	○教科書や資料集、インターネット等をもとに裁判所の仕組みや三権分立について調べる。 ☆裁判の判決は重要な意味をもっているため、より公正で慎重な裁判が行われなければならない。そのためにも三権が分立されている。

① (まとめ)	政治のはたらきが国民生活の安定と向上を図っていることを理解する。	○利用者が減ってきているバス路線を税金で補助する意味を考えることで、政治のはたらきについて理解する。 ☆税金をどのように使うのか考えて政治が行われることで、自分たちの生活は支えられている。
------------	----------------------------------	---

## 6. 本時の指導（第8／8時）

### (1) 本時のねらい

札幌市がバス事業の維持に税金を使っている意味を考える活動を通して、市民一人一人の暮らしに租税が大切な役割を果たしていることについて考え、政治のはたらきについて理解することができる。

### (2) 本時における考え合い表現し合う活動と指導の留意点

バスや鉄道などの公共交通機関は、車を運転できない子どもや高齢者をはじめ、通勤通学に使う大人や学生にとって必要不可欠な移動手段である。しかし、近年のモータリゼーションの影響で利用客は減少の一途をたどっている。人口が190万人を超えている札幌市でも、税金で補助を出さないと公共交通機関を維持できないのである。

そこで、バス事業が税金の補助を受けて行われているという事実に対する考えを述べ合うことを通して、税金の意味やはたらきについての理解や考えを深めながら、「利用客が減ってきている＝社会に必要とされていない」から、「利用客は減ってきているけれども、社会に必要なものは政治のはたらきで支えていく」へと見方や考え方を変容させたいと考えた。

### (3) 本時の展開

時配	○学習活動 T：発問 C：児童の反応	◎資料 ◇留意点 ◆評価
8	○前時まで調べたことを整理する。 T：「税金・国会・選挙・内閣・裁判所・三権分立」のキーワードを使って学習をまとめましょう。 C：内閣は税金の使い方について考えている。 C：国会は税金の使い方をチェックしている。 C：権力が集中しないように、国会と内閣と裁判所がお互いの仕事を調べる役割がある。 T：札幌市の税金の使い方を決めているのはどこですか。 C：札幌市議会で決めています。	◎聞き取りメモ、ノート ◇一つの文章に多くのキーワードを入れるのではなく、2～3つの言葉を関連付けて簡潔な文章を書くように助言する。 ◆調べてきたことをもとに、政治のはたらきについて理解している。 (知・理／ノート)
5	○バスの乗車人員と走行キロ数の経年変化のグラフから学習問題を生む。 T：では、札幌市の税金の使われ方を見てください。これは札幌市のバス利用者数のグラフです。 C：30年前から比べると半分減っている。 T：バスが走っている距離はどうなっていると思いますか。	◇バスの利用者数の経年変化を折れ線グラフで提示する。 *資料は札幌市のHPより作成

5	<p>C : 走っている距離も半分に減っている。  C : バスが走っている距離は 30 年前から変わっていない。  T : 札幌市が補助として税金を出しているからです。平成 24 年度では 6 億円以上使われています。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>利用者が減ってきているバス事業に札幌市が税金を使うのはどうしてだろう。</p> </div> <p>○ノートに自分の考えを書く。</p>	<p>◇予想を立てさせた後にバスの走行キロ数の経年変化を提示する。</p> <p>◎聞き取りメモ, ノート</p>
15	<p>○各自の考えを交流する。  T : それでは、みなさんの意見を聞かせてください。  C : バスが無くなると、車がない人が困る。  C : お父さんが会社に通うのが大変になる。  C : 自分も習い事に通えない。  C : おじいちゃんがバスで病院に通っているよ。  T : 利用者は減っているけれど、バスが無くなると困る人もたくさんいるということですね。  C : 札幌市はみんなが暮らしやすい街づくりを進めている。  C : 暮らしやすい街になればもっと人口も増える。  C : 公共交通機関は環境にも優しい。  T : だから札幌市は税金を使ってバス路線を残しているのですね。では、その他にはどのようなところで税金は使われていますか。  C : 警察署や消防署があるから安心して生活することができる。  C : 学校があるからみんな勉強することができる。  C : 円山動物園は、中学生以下だと無料で入ることができて楽しいよ。</p>	<p>◇行政の立場、市民の立場に分けて、子どもの意見を黒板にまとめていく。  ◇どのような場面でどのような人が困るのか、具体的な発言を引き出す。</p> <p>◇自分の身のまわりに視点を広げて考えることで、政治のはたらきと自分の生活とのつながりを実感できるようにする。</p>
10  2	<p>○わかったことをノートにまとめる。</p> <p>○まとめたことを発表する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>札幌市は税金を使ってわたしたちの暮らしを支えているんだね。</p> </div>	<p>◇全体交流ではなく、小グループでの交流も考えられる。  ◆自分の生活と札幌市の行政とのつながりを考え、適切に表現している。  (思・判・表/ノート)</p>

つかむ

調べる

まとめる

深める

## ～歴史学習と関連付けて、日本のODAの意味について考えを深める活動～

### 1. 小単元名『世界の人々とともに生きる』

(教科書：『小学社会 6 下』 p.62～79／学習指導要領：内容（3）イ）

### 2. 小単元の目標

日本や世界の人々がさまざまな形で国際交流や国際協力を行っていることや、平和な社会の実現に向けて努力している国際連合などはたらきについて調べ、残されている問題にも目を向けながら、今後、国際社会の中で日本が世界に果たすべき役割について考えるようにする。

### 3. 小単元の評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	観察・資料活用の 技能	社会的事象についての 知識・理解
世界で起きている問題の解決に向けて取り組んでいる我が国の国際交流や国際協力の様子や世界の人々の活動に関心を持ち、意欲的に調べようとしている。	世界で起きている問題と、その解決のために行われている活動とを関係付けて考え、すべての人が安心して暮らせる社会の実現に向けて大切なことを、自分なりに表現している。	世界における問題を解決する国際交流や国際協力の事例について、資料を活用したり、経験者から話を聞いたりして調べ、まとめている。	世界の平和や環境を守るために人々が協力して活動していることや、国際社会で日本が果たしている役割、今後の課題について理解している。

### 4. 指導にあたって

#### (1) 児童の実態

「深める」1時間で、日本が中国に対して行っているODAの意味を考える時間を設定する。隣国・中国について、領土をめぐる問題や環境問題など、日常生活の中で触れることの多い情報からイメージを抱いている子どもは少なくない。ここでの学習を、共に理解し合うことの大切さ、未来を見据えたより良い国際協力のあり方に気付く機会にする。

#### (2) 教材について

中国は、日本をしのぐGDP世界第2位の経済大国である。そして、日中間には領土をめぐる問題などもある。そのような状況にもかかわらず、日本が中国へ「草の根無償資金協力」として小・中学校校舎建て替え支援を続けている事例を「深める」1時間で取り上げる。その事例から、中国に対してODAを行う日本政府の意図を考え、「国際協力は世界貢献であり、相手国のニーズに合わせた支援が必要である。」という見方や考え方まで高める。校舎の建て替えは、ODA相手国の中国にとって必要だから行っているというだけでなく、日中両国の友好な関係を維持・発展させるため、また、持続可能な社会の実現という地球的課題のために行っているとも言えるのである。

#### (3) 指導上の工夫・留意点

子どもの追究意欲を持続させるため、単元を貫く学習問題を設定する。世界各地で、平和や環境

を守るために日本人がどのような活動をしているのか、世界の人々とどのような協力をしているのかについて調べられるように、日本の国際貢献に関わる学習問題を設定する。単元を通して、誰もが安心して生き生きと暮らせる社会の実現に向けて、世界が協力していることに気付くようにする。

## 5. 小単元の指導（総時数8時間）

時数	ねらい	○学習活動 ☆内容
② (つかむ)	世界で活躍する日本人の様子や、日本の技術の写真から、日本が世界の平和や環境を守るためにしていることに興味をもち、学習問題を設定することができるようにする。	○教科書の写真から、日本人の活動の様子や日本の技術が生かされている様子を読み取り、分かったことをまとめ、学習問題を設定する。 ☆人々の生命を守ったり、暮らしを向上させたりするために、世界各国が協力し合っていること。
① (調べる)	ユニセフの活動を調べることを通して、子どもの命や権利を守るための取り組みの重要性や、ユニセフと日本の関わりを考えることができるようにする。	○黒柳徹子さんの営みや募金活動を切り口に、世界の子ども命や権利を守るユニセフのはたらきを調べる。 ☆ユニセフが、世界の子どもたちの健康や安全を守る活動を行っていること。そのためには、世界各国の協力が必要であること。
① (調べる)	国際連合のはたらきを調べることを通して、世界の平和を守るための取り組みの重要性や、国際協力の必要性をつかむ。	○国際連合のはたらきや世界の平和や社会の発展のために果たしている役割について調べ、分かったことや考えたことをまとめる。 ☆世界の平和と安全を守り、社会を発展させるためには、国際協力が必要であり、国際連合が重要な役割を果たしていること。
① (調べる)	地球温暖化など、地球環境をめぐるさまざまな問題について調べ、その解決に向けた国際協力の重要性をつかみ、持続可能な社会を目指すことの大切さを理解する。	○大気汚染や干ばつなど地球環境に関する問題について調べ、分かったことや考えたことをまとめる。 ☆地球環境を守るためには、世界各国の協力と持続可能な社会を目指していく取り組みが必要であること。
① (調べる)	世界の国々の交流の様子について調べ、お互いの文化や習慣を理解し合うことの大切さに気付き、これからの交流のあり方について考えることができるようにする。	○世界の国々との交流や、互いの理解を深めている事例について調べ、分かったことや考えたことをまとめる。 ☆日本は言葉や文化・習慣の違いを超えて、様々な国と伝統文化やスポーツを通して交流し、お互いに親善や理解を深めていること。
① (深める)	日本のODAについて調べ、その意味や役割について考え表現することで、誰もが安心して暮らすことのできる社会の実現に向けて、日本が貢献していることを理解する。	○日本が中国の小中学校の校舎建て替え事業を支援している意味を考え、日本が世界の平和や環境を守るために努力していることを「新聞」で表現する。 ☆日本は、持続可能な社会の実現のために、世界各国に向け、その国のニーズに合わせた支援をしていること。

① (ま と め る)	日本が世界の平和や環境を守るために努力していることを、キーワードを使って短い文章にまとめることができるようにする。	○教科書 p.77 を参考に、まとめの文章作りをする。 ○持続可能な社会の実現のために自分ができることを単元の学習をふり返りながら書く。 ☆地球規模の諸問題を解決するために、異なる文化をもつ国々と、共に助け合う必要があること。
-------------------------	---	---

## 6. 本時の指導（第7／8時）

### (1) 本時のねらい

日本のODAについて調べ、その意味や役割について考え、「新聞」で表現することで、だれもが安心して暮らすことのできる社会の実現に向けて、日本が貢献していることを理解する。

### (2) 本時における考え合い表現し合う活動と指導の留意点

本時では、歴史単元で学んだ既習内容を生かすことで、より意欲的・主体的に考え合うことができるようにしたいと考えた。教材にしたのは、日本が1996年にODAの草の根無償資金協力としてせんせいしょうせいへんけんとうこう陝西省靖辺県東杭中学校の校舎建て替えを行った事例である。建て替え前と建て替え後の2枚の写真の比較、「陝西省靖辺県日中友好東杭中学校」へと変更された校名に「日中友好」が加わった事実、また、1990年から22年間で300校以上の校舎の建て替えを行ったということや、両国関係の歴史的な背景を踏まえて、日本が行っているODAの意味を考えるようにする。

授業の後半では、新聞作りの活動を取り入れる。日本が各国に対して行っているODAの意味を考え、新聞に表現する活動を通して、「日本は持続可能な社会の実現のために、世界各国に対して、その国のニーズに合わせた支援をしている」ことに気付くようにする。

### (3) 本時の展開

時配	○学習活動 T：発問 C：児童の反応	◎資料 ◇留意点 ◆評価
10	<p>○日本が中国の小中学校の校舎建て替え事業を支援している意味を考える。</p> <p>T：日本政府が、支援を必要とする国々に対して、社会の発展や福祉の向上のために資金や技術を提供して行う援助を、ODA（政府開発援助）と言います。</p> <p>C：JICA（国際協力機構）や青年海外協力隊も、その事業の一つと書いてあります。</p> <p>T：この写真は何の写真でしょうか。</p> <p>C：古い建物か家だと思います。</p> <p>T：実はこれは学校です。<small>せんせいしょうせいへんけんとうこう</small>陝西省靖辺県東杭中学校です。この学校が日本のODAによって建て替えられました。校名には「日中友好」という名が加えられました。</p> <p>C：まったく違う建物のように感じます。</p> <p>C：建て替え前の学校は地震が来たら崩れそうです。</p>	<p>◎教科書 p.74</p> <p>◇ODA（政府開発援助）について、教科書を使って確認する。</p> <p>◇JICA（国際協力機構）や青年海外協力隊についても触れるようにする。</p> <p>◇校舎の建て替え前と建て替え後の写真を提示する。</p> <p>◇2枚の写真を見て気付いたことを引き出すようにし、疑問点が</p>

	<p>T：日本は、なぜ中国の学校を建て替えることに協力しているのでしょうか。</p> <p>C：中国は日本よりもGDPが高いのに疑問に思います。</p> <p>○本時の学習問題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>なぜ、日本は草の根無償資金協力で中国の学校の校舎建て替えを行っているのだろうか。</p> </div> <p>T：では、まず自分の考えをノートにまとめてみましょう。</p>	<p>浮かび上がるようにする。</p> <p>◇考える時間を確保し、討論に向けた準備ができるようにする。</p> <p>◎教科書、資料集、写真など</p>
20	<p>○個人で考えたことを、学級全体で交流する。</p> <p>T：それでは、考えたことを教えてください。</p> <p>C：私は、<sup>せんせいしょう</sup>陝西省の位置に着目しました。<sup>せんせいしょう</sup>陝西省は農村部と考えられるので、北京や上海などの都市部と違って、貧しい暮らしをしている人が多いと考えられます。</p> <p>C：似ています。だからこそ支援が必要なのだと思います。</p> <p>T：この資料を見てください。1990年から22年間で計300校以上の校舎建て替えをしたデータです。これを見ると今話した人たちの意見が確かだと分かりますね。</p> <p>C：私は、日本が過去に戦争をした経験があるから、世界に貢献しようとしているのだと考えました。</p> <p>C：確かに、中国には反日感情があるから、「中国のために」と考えるのは自然なことだと思います。</p> <p>C：また、食料や経済の面で中国と良い関係を築いておくことは日本にとって大切なことだとも考えられます。</p> <p>C：校名に「日中友好」と加わることで、そこに通う子どもたちは日本に感謝するようになると思います。</p> <p>T：そうすると、日本と中国の良い関係が築けそうですね。</p> <p>C：日本が建て替えた新しい校舎に通う中国の子どもたちは、安心して学校に通えると思います。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>日本は、中国の子どもたちが安心して学校に通えるように、日中友好が続くようにするために、校舎の建て替えをしているんだね。</p> </div>	<p>◎ノート</p> <p>◇似た考えがつながるように話し合いを進めていく。</p> <p>◇中国の県ごとにまとめた校舎建て替えデータを提示し、農村部に建て替え件数が多いことを確認する。</p> <p>◇既習を生かした別の視点の考えを引き出す。</p> <p>◇日中関係の大切さに触れた意見を引き出す。</p> <p>◇校名に加えた「日中友好」の意味に触れる。</p> <p>◇出てきた意見を合わせて、学習問題に対するまとめをしていく。</p>
15	<p>○日本が行っているODAの意味を新聞に表現する。</p> <p>T：中国に対するODAを取り上げて考えてみましたが、日本のODAにはどのような意味があるのかを考えて、新聞にまとめてみましょう。</p> <p>C：相手の国の立場で考えていると感じました。</p> <p>C：日本にとって大切な国に対して、必要な支援をしているのだと思いました。</p> <p>C：世界みんなが平和に暮らせるように願っているのだと思いました。</p>	<p>◇ODA全体の意味について考えられるように支援する。</p> <p>◆自分が考えたことや、交流の中で聞いた友達の考えを根拠に、日本のODAについて自分なりに捉えた意味を新聞にまとめている。</p> <p>(思・判・表／新聞)</p>